

Top Message

ごあいさつ

収益力の改善に全力で取り組むと同時に、海外拠点の強化や新たな製品・技術の開発、ものづくり力の強化などの施策を実施してまいります。

代表取締役社長

佐藤 廣 士



株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

当期のご報告

さて、当社グループの第159期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)の連結業績についてご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、第3四半期以降は、タイの洪水影響を含めた海外経済の減速や円高の定着が重石となり、ほぼ横ばいで推移しました。海外では、新興国を中心に緩やかな成長が持続したものの、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めを背景に、成長ペースは鈍化しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品、銅板条の販売数量が、震災やタイの洪水影響などにより、前期を下回りました。また、中国における油

圧シヨベルの販売台数も、金融引き締めの影響により減少し、前期を下回りました。

この結果、当期の連結業績は、売上高は前期並みの1兆8,646億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や中国における油圧シヨベルの販売台数の減少に加え、鉄鋼主原料価格の上昇などの影響により、営業利益は前期に比べ639億円減益の605億円、経常利益は前期に比べ553億円減益の337億円となりました。また、当期純損益は、繰延税金資産の取崩しを行なったことなどから、前期に比べ671億円減益の142億円の損失となりました。

当期の配当について

当期の配当につきましては、中間配当として1株につき1円を実施いたしました。期末配当につきましては、当期純損益が大幅な赤字となったことや、今後も厳しい経営環境が続くものと予想されることを総合的に考慮し、見送ることと

させていただきます。株主の皆様のご期待に沿えず申し訳ございませんが、事情をご賢察のうえ、何卒ご理解を賜わりますようお願い申し上げます。

今後の取組みについて

当社グループは、平成22年4月に中長期の経営指針として「中長期経営ビジョン『KOBELCO VISION“G”』～新しい価値の創造とグローバルな成長を目指して～」を策定し、実現に向けて取り組んでまいりました。

この間、国内外での大きな自然災害だけでなく、海外経済の変調、急激な円高の進行・定着など、当社グループの各事業の需要環境に大きな影響を及ぼす事象がおり、現在も不透明な状況が続いております。

当期の業績は、コストダウンや収益改善に向けた製品価格の改定などに努めましたが、外部環境の変化や、主原料価格高騰などの影響により、前期に比べ、大幅な減益を余儀なくされました。

このような状況での、当社グループの課題は、まず、収益力の改善、中でも赤字に陥っている鉄鋼事業の収益力回復であると認識しております。現在、製鉄所の上工程を中心に大型の合理化設備投資を進めているほか、鉄鉱石の安定調達とコストダウンのため、鉱山権益投資も決定いたしました。

今後も、鉄鋼事業だけでなく、当社グループを挙げて収益の改善、体力の強化に努めてまいります。

一方、収益力改善の取組みと並行して、成長のための取組みも着実に進めていかなければなりません。

中長期の事業環境をみると、新興国を中心とした海外需要の伸長や、低燃費、省エネルギー製品・技術へのニーズの高まりなど、大きな変化が進行しております。

当社グループは、世の中の変化に様々な製品・技術でのアプローチが可能な多様性を有しております。中長期的な事業環境の変化に対し、当社グループならではの多様性を武器に、当社グループの成長ビジョンである、中長期経営ビジョン「KOBELCO VISION“G”」の達成を目指してまいります。

具体的には、世界各地での自動車メーカーをはじめとした需要家の現地生産化への対応や、新たな需要への対応のため、各事業分野において、海外拠点の生産能力増強や現地メーカーとの合併の検討などの取組みを今後も進めてまいります。また、再生可能エネルギーの利用など、今後の拡大が期待できる新たな需要分野への対応も進めてまいります。

加えて、製造拠点間の交流促進を通じてコストダウンや設備の安定稼働、品質改善のアイデアを共有し、実践するといった「ものづくり力」の底上げ、強化に向けた活動を拡大してまいります。さらには、海外実務研修や外国人採用の拡大など、グローバルな事業展開に対応する人材育成の推進への取組みも継続してまいります。

当社グループは、社会との共生も重要な課題と認識しております。様々な社会のニーズに応える製品・サービスの提供はもちろんのこと、国内外の各事業拠点における様々な活動を通じて地域との共生にも引き続き取り組んでまいります。

当社グループは、安全やコンプライアンス意識の向上を図るとともに、以上のような取組みを着実に進めることで、持続的な企業価値の向上を目指してまいりますので、株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

平成24年6月

連結

売上高

1兆8,646 億円
(前年同期比 +0.3%)



営業損益

605 億円
(前年同期比 \triangle 51.4%)



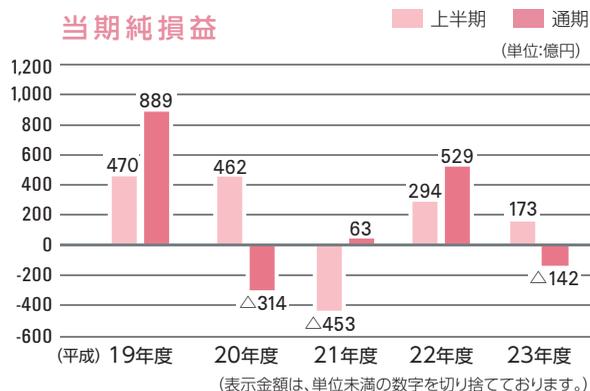
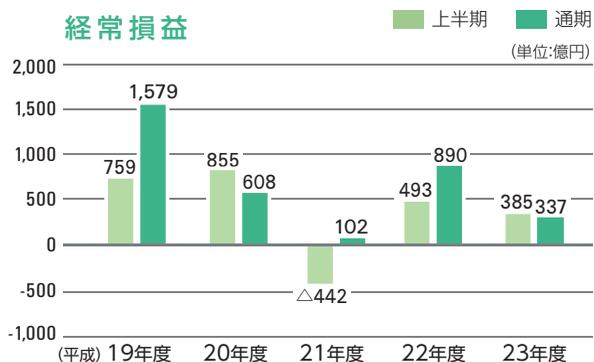
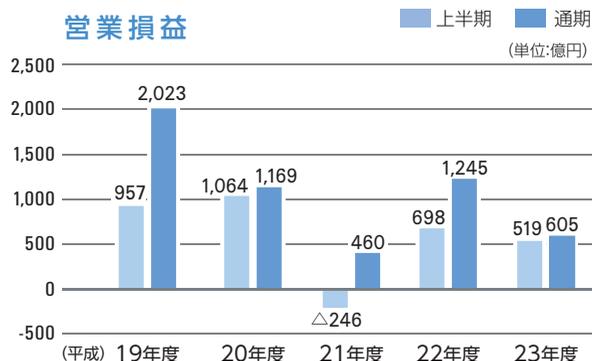
経常損益

337 億円
(前年同期比 \triangle 62.1%)



当期純損益

\triangle **142 億円**
(前年同期比 -)



当期の概況

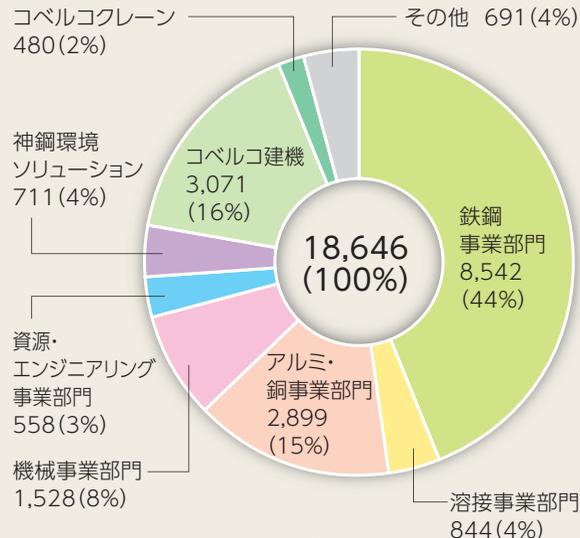
当期のわが国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、第3四半期以降は、タイの洪水影響を含めた海外経済の減速や円高の定着が重石となり、ほぼ横ばいで推移しました。海外では、新興国を中心に緩やかな成長が持続したものの、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めを背景に、成長ペースは鈍化しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品、銅板条の販売数量が、震災やタイの洪水影響などにより、前期を下回りました。また、中国における油圧ショベルの販売台数も、春節明けの旺盛な需要を取り込んだものの、4月以降は金融引き締めの影響により減少し、前期を下回りました。

当期の連結業績は、売上高は前期並みの1兆8,646億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や中国における油圧ショベルの販売台数の減少に加え、鉄鋼主原料価格の上昇などの影響により、営業利益は前期に比べ639億円減益の605億円、経常利益は前期に比べ553億円減益の337億円となりました。また、当期純損益は、繰延税金資産の取崩しを行なったことなどから、前期に比べ671億円減益の142億円の損失となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ114億円減収の1兆786億円となり、営業損益は前期に比べ598億円減益の93億円の損失、経常損益は前期に比べ479億円減益の197億円の損失、当期純損益は前期に比べ605億円減益の302億円の損失となりました。

事業別売上高(平成23年度) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額681億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,646億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼事業部門

8,542 億円
(前年同期比 +1.6%)



鋼材の販売数量は震災やタイの洪水影響、円高の影響により低迷しました。

- 鋼材の販売数量は震災やタイの洪水、円高の影響などにより前期比減少。
- 鋼材販売価格は主原料価格の高騰に対し製品価格への転嫁に努め前期比上昇。
- 鋳鍛鋼品の売上高は造船向けの販売価格下落により前期比減少。
- チタン製品の売上高は新興国のインフラ整備の需要が高まり、前期比上昇。

- 経常損益は主原料価格の上昇の影響などが大きく、前期比384億円減益の146億円の損失。



熱延コイル製品



溶接事業部門

844 億円

(前年同期比 +8.5%)



溶接材料、システムの需要はともに堅調に推移しました。

- 溶接材料の販売数量は、海外の需要が堅調に推移し前期比上昇。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械向けの需要が旺盛で前期比上昇。
- 経常利益は前期15億円減益の31億円。



建機部品溶接ロボットシステム



アルミ・銅事業部門

2,899 億円

(前年同期比 △4.6%)



銅管は堅調に推移するもアルミ圧延品は震災やタイの洪水影響などにより低迷しました。

- アルミ圧延品の販売数量は震災やタイの洪水の影響などにより前期比減少。
- アルミ鋳造品の売上高は液晶・半導体製造装置関連の需要が低迷したものの自動車向けが堅調に推移し前期並。
- 銅管は堅調に推移するも、銅板条は需要が減少し、銅圧延品の販売数量は前期比減少。
- 経常利益は前期比87億円減益の60億円。

アルミ鍛造品
新幹線用ベアリングサポートアルミ鋳造品
航空機用ギアボックス

機械事業部門

1,528 億円

(前年同期比 △1.1%)



石油精製・石油化学業界向けの需要が堅調に推移しました。

- 石油精製・石油化学業界向け圧縮機は堅調に推移。
- 受注高は前期比3.0%増の1,450億円。当期末の受注残高は1,605億円。
- 経常利益は46億円減益の98億円。



蒸気駆動式エアコンプレッサ[SD1310]



資源・エンジニアリング 事業部門

558 億円

(前年同期比 Δ 13.1%)



大型案件を受注した前期に比べ
受注高が減少しました。

- 受注高は大型還元鉄プラントを受注した前期と比べ61.1%減の292億円。
- 当期末の受注残高は700億円。
- 経常利益は27億円減益の3億円。



MIDREXプラント(カタール)



神鋼環境 ソリューション

711 億円

(前年同期比 +2.3%)



大型の廃棄物処理関連事業を
受注しました。

- 受注高は廃棄物処理関連事業の大型案件の受注により、前期比21.5%増の788億円。当期末の受注残高は426億円。
- 経常利益は10億円増益の42億円。



バイオガス都市ガス化設備東灘処理場



コベルコ建機

3,071 億円

(前年同期比 Δ 1.9%)



主力市場である中国で需要が
低迷しました。

- 東南アジアや震災からの復旧需要が増加した国内の販売台数が前期を上回る。
- 中国では金融引き締めの影響もあり前期を下回る。
- 経常利益は34億円減益の228億円。



電動マルチ解体機[SK210D]



コベルコクレーン

480億円
(前年同期比 +17.2%)



海外、国内で需要が回復しました。

- 海外需要の増加に加え、震災からの復旧に関連し販売台数は前期比上昇。
- 経常損益は15億改善し、1億円の利益。



シティコンシャスクレーン
[PANTHER-X700]

etc

その他

691億円
(前年同期比 +5.5%)



不動産事業は分譲、賃貸事業が堅調に推移しました。

- 不動産事業において分譲事業、賃貸事業が堅調に推移。
- ターゲット材の需要が低迷。
- 経常利益は7億円増益の72億円。



ジークレフ千里中央
パークグレイス

リチウムイオン二次電池
評価設備

本年4月にホームページをリニューアルいたしました。

業績に関する詳しい説明は、当社ホームページでご覧いただけます。当社ホームページには、「株主・投資家情報」のコーナーを設けて、決算短信、IR説明会資料などを掲載しているほか、当社グループのさまざまな事業もご紹介しています。是非、一度ご覧ください。

当社ホームページアドレス <http://www.kobelco.co.jp>



● 鉄鋼事業部門 ○ アルミ・銅事業部門 ● 機械事業部門 ● コベルコクレーン

2011 (平成23年)

10月

鉄鋼事業部門

日産自動車株式会社で新型自動車用冷延ハイテンが採用

当社の開発した「TBF型1180MPa級自動車用冷延ハイテン」が、日産自動車株式会社の新車種ボディ骨格部品に採用されました。近年、自動車メーカーにとって車体軽量化による燃費向上は急務である一方で、日本、欧米では衝突安全規制の強化に対応した車体の強度向上が求められています。ハイテンは、強度を高めれば高めるほど加工するのが困難でしたが、この「TBF型1180MPa級自動車用冷延ハイテン」は高い強度を保ったまま、加工しやすいという特徴を持っており、今回2013年発売予定の新車種への採用が決定いたしました。1180MPa級ハイテンが自動車ボディ骨格部品に採用されたのは世界初となります。当社は今後も自動車メーカーの更なる軽量化、安全性強化へ貢献してまいります。



神鋼汽車鋁部件(蘇州)有限公司

12月

アルミ・銅事業部門

中国のアルミ鍛造部品の製造拠点で能力増強を決定

中国における自動車メーカー各社の生産台数が急速に拡大しており、車体軽量化ニーズに対応するため、アルミサスペンションの需要が伸張しています。「神鋼汽車鋁部件(蘇州)有限公司」では、現在2012年8月の量産開始に向け、建設工事を進めています。更なる受注量の増加が見込まれるため、今回、設備を追加導入することで一貫生産体制を構築し、生産の効率化を図ります。追加設備は2013年3月から稼働開始の予定です。



アルミ製バンパーシステム

2012 (平成24年)

1月

アルミ・銅事業部門

アルミ製バンパーシステムがトヨタ自動車株式会社レクサスGSに採用

当社のアルミ製自動車部材「電磁成形ステイ貫通型バンパーシステム」が、トヨタ自動車株式会社の「レクサスGS」に採用されました。

一般的なバンパーシステムは鉄とアルミを組み合わせていましたが、それらをアルミで作ることで軽量化し、一体成型することによりコストダウンにも成功しました。

また、この開発に対し、トヨタのグローバル仕入先総会にてこれらが評価され、技術開発賞を受賞いたしました。



開所式の様子

2月

コベルコクレーン

インドの新クローラクレーン工場が本格稼働開始

3月

機械事業部門

国内初の小型温泉発電システム(バイナリー発電システム)が湯布院の温泉旅館で採用



マイクロバイナリー設置イメージ

環境への取組みと 社会との共生

神戸製鋼グループは、地球環境の保全が全ての生命体に共通する最も重要な課題であり、より健全な地球環境を次世代に引き継ぐことが私たちの使命であると認識し、環境経営基本方針を策定して、事業活動のあらゆる面で環境に配慮する環境経営の推進に努めています。

■環境経営基本方針

『グループ環境経営の実践によるさらなる企業価値向上』
—— グループの環境力向上 ——

神戸製鋼グループは、環境先進企業グループとして

1. 環境に配慮した生産活動
2. 製品・技術・サービスでの環境への貢献
3. 社会との共生・協調

を実践することにより、社会的責任を果たすと共に、環境力を高め企業価値を向上させる。

■「優秀省エネルギー機器表彰・日本工業連合会会長賞」を受賞

神戸製鋼と産業用ボイラ大手の三浦工業(株)が共同開発した圧縮熱回収蒸気駆動式エアコンプレッサ「コベライアンSDシリーズ(SDC)」が「平成23年度(2011年度)優秀省エネルギー機器表彰・日本工業連合会 会長賞」を受賞しました。この表彰は(社)日本機械工業連合会が主催となり、エネルギーの効率的利用の促進に貢献する機器に贈られるものです。

SDCは神戸製鋼の圧縮機技術と三浦工業の熱システム技術を融合させた商品で、工場で使われている蒸気の差圧を利用して空気を圧縮するとともに、圧縮した空気の熱で温水を取り出すこともできます。従来の電気駆動式と比べ、ランニングコスト85%(約500万円/年)、CO₂排出量90%(約250万t/年)の削減が可能です。今回の表彰でも「工場で使われる空気圧縮機の消費電力は国内総消費電力の5%に相当し、消費電力を大幅に削減できる本商品は電動式に代わって普及することができる」ということが高く評価されました。



SDC。左側が蒸気駆動空気圧縮機ユニット、右側が圧縮回収ユニット

■KOBELCOの森・ECOWAYの森 開設

神戸製鋼では2001年に設立した「公益信託コベルコ自然環境保全基金」と「コベルコ環境創造基金」を通じて、兵庫県下の市民・団体の環境保全活動を支援してきました。

10年を経てこのたび、従来の「活動金助成」から「参画・協働」を軸にした新しい制度をスタートしました。

その第1弾として、2011年11月に兵庫県の「ひょうご 企業の森づくり」制度に全神戸製鋼労働組合連合会とともに参画し、グリーンピア三木(兵庫県三木市)内の「KOBELCOの森」と名付けたエリア(約2ha)にて森開き式典を行ない、森林整備活動を開始しました。その後、2012年4月にも森林整備活動を実施しており、今後も継続して活動を行なっていきます。

また、六甲山系油コブシ周辺の「ECOWAYの森」と名付けたエリア(約0.6ha)では2012年4月に森林整備活動を始めました。この活動は、国土交通省の「六甲山系グリーンベルト整備事業」に賛同するものです。

これら「KOBELCOの森」・「ECOWAYの森」は、一般の方の参加を募った自然観察会の場としても活用していきます。



下草刈り作業



間伐作業

社会貢献への取り組み

社会との共生

神戸製鋼グループは、未来を担う子供たちの成長をお手伝いするため、様々な活動を行なっています。

2006年度に設立した「コベルコ地域社会貢献基金」では、2011年度も事業所・研究所が立地する10市1町において、子供たちを対象に遊具や絵本などのほか、様々な活動費や備品購入費などの支援を行ないました。

このほか、当社の地域交流施設である灘浜サイエンススクエアでは、地域の子供を対象に、木の実や木の枝などを使って作品を作る「ネイチャークラフト教室」や、物理系の実験を通じて科学への好奇心を育む「ものしりひろばの実験屋台」など、体験を

通じて学習することができる各種イベントを開催しています。

また、グループ会社のコベルコ建機株式会社では、事業所のある広島市で、従業員が市内の小学校を訪れ、理科の授業を行ないました。子供の理科離れを防ぎたいという思いで、2010年よりこの活動を続けています。

神戸製鋼グループは、今後も、こうした活動を継続し、社会との共生を目指してまいります。



寄贈した絵本を読んでもらう子供たち

ラグビーを通じての活動

ラグビーの普及活動

当社ラグビー部、神戸製鋼コベルコスティールーズは、ラグビーの普及活動として、日本全国の小中学校やラグビースクールを訪問し、はじめてラグビーに触れる子供たちにはラグビーの楽しさを教え、経験ある子供へは技術指導などを行なっています。

また「全国高等学校ラグビーフットボール大会」と「全国高等学校合同チームラグビーフットボール大会」に2005年度より特別協賛しているほか、2011年度より「全国高等学校女子7人制ラグビーフットボール大会」も特別協賛し、ラグビーの普及活動とスポーツ振興に努めています。



ラグビースクールの様子

募金活動

神戸製鋼コベルコスティールーズには昨年までにファンの皆様のほか、選手・スタッフおよびその家族から義援金が寄せられました。寄せられた義援金は、東日本大震災で被災された方々に向けて、日本ラグビーフットボール協会を通じて「日本赤十字社」へ、ニュージーランドの地震で被災された方々に向けて、駐日ニュージーランド大使館を通じて「ニュージーランド地震・被害者救援募金」へとそれぞれ寄付いたしました。

また、2010-2011シーズンのジャパントップリーグ、日本選手権出場会場にて「Kobelco Steelers基金」として募金活動を行ないました。集まった募金は昨年7月に開催いたしました「コベルコラグビーフェスティバル2011」での収益金の一部とあわせて「日本せきずい基金」へ寄付をいたしました。



贈呈式の様子

Corporate Data

事業分野

鉄鋼事業部門

(平成24年3月31日現在)

条鋼(普通線材、特殊線材、特殊鋼線材、普通鋼棒鋼、特殊鋼棒鋼)、鋼板(厚板、中板、薄板<熱延・冷延・表面処理>)、鋼片、鋳鍛鋼品(船用部品・電機部品・産業機械部品等)、チタンおよびチタン合金、鉄粉、鋳物用銑、製鋼用銑、スラグ製品、ステンレス鋼管、建材、各種特殊鋼製品、各種鋼線、電力卸供給

溶接事業部門

溶接材料(各種被覆アーク溶接棒、自動・半自動溶接用ワイヤ、フラックス)、溶接ロボット、溶接電源、各種溶接ロボットシステム、溶接関連試験・分析・コンサルティング業

アルミ・銅事業部門

アルミ圧延品(飲料缶用アルミ板、熱交換器用アルミ板、自動車用アルミ板、各種アルミ押出品、磁気ディスク用アルミ基板、アルミ箔)、銅圧延品(半導体用伸銅板条、自動車端子用伸銅板条、リードフレーム、復水管、空調用銅管)、アルミニウム合金およびマグネシウム合金鋳鍛造品(航空機用部品、自動車用部品等)、アルミ加工品(自動車用部品、建材、建設用仮設資材等)

機械事業部門

エネルギー・化学関連機器、原子力関連機器、タイヤ・ゴム機械、樹脂機械、超高圧装置、真空成膜装置、金属加工機械、各種圧縮機、冷凍機、ヒートポンプ、各種プラント(製鉄圧延、非鉄等)、各種内燃機関

資源・エンジニアリング事業部門

製鉄プラント(還元鉄)、各種プラント(ペレタイジング、石油化学等)、原子力関連プラント、砂防・防災製品、土木工事、新交通システム

神鋼環境ソリューション

水処理プラント、廃棄物処理プラント、化学・食品関連機器

コベルコ建機

油圧ショベル、ミニショベル、ホイールローダ

コベルコクレーン

クローラークレーン、ラフテレーンクレーン、作業船

その他

不動産開発・建設・分譲・仲介・リフォーム、不動産賃貸・ビルマネジメント、マンション管理、特殊合金他新材料(ターゲット材等)、各種材料の分析・解析、高圧ガス容器製造業、超電導製品、有料老人ホームの運営、総合商社

連結子会社および持分法適用会社 [212社]

(平成24年3月31日現在)

鉄鋼事業部門：42社

日本高周波鋼業株式会社、神鋼特殊鋼管株式会社、神鋼建材工業株式会社、神鋼神戸発電株式会社、神鋼物流株式会社、神鋼ボルト株式会社、堺鋼板工業株式会社、株式会社神鋼エンジニアリング & メンテナンス、株式会社大阪チタニウムテクノロジーズ、*神鋼鋼線工業株式会社、*関西熱化学株式会社、*株式会社テザックワイヤロープ、*プロテック コーティング CO.、*双日リソース・テクノロジー Pty Ltd 他

溶接事業部門：23社

エヌアイウエル株式会社、青島神鋼溶接材料有限公司、コウベ ウェルディング オブ コリア CO.,LTD. 他

アルミ・銅事業部門：26社

株式会社コベルコ マテリアル銅管、サン・アルミニウム工業株式会社、コウベ アルミナム オートモーティブ プロダクツ LLC、コウベ プレシジョン テクノロジー SDN.BHD. 他

機械事業部門：18社

コベルコ・コンプレッサ株式会社、神鋼造機株式会社、神鋼圧縮機製造(上海)有限公司、*無錫圧縮機股份有限公司 他

資源・エンジニアリング事業部門：20社

ミドレックス テクノロジーズ, INC. 他

神鋼環境ソリューション：8社

株式会社神鋼環境ソリューション、神鋼環境メンテナンス株式会社 他

コベルコ建機：35社

コベルコ建機株式会社、東日本コベルコ建機株式会社、西日本コベルコ建機株式会社、成都神鋼工程機械(集団)有限公司、成都神鋼建設機械有限公司、杭州神鋼建設機械有限公司、成都神鋼建機融資租賃有限公司、タイ コベルコ コンストラクション マシナリー LTD.、コベルコ インターナショナル シンガポール CO.,PTE.LTD.、*コベルコ コンストラクション マシナリー アメリカ LLC 他

コベルコクレーン：11社

コベルコクレーン株式会社、コベルコ クレーン インディア PVT.LTD. 他

その他：29社

神鋼不動産株式会社、株式会社コベルコ科研、神鋼投資有限公司、コウベ スチール USA ホールディングス INC.、*神鋼商事株式会社、*日本メディカルマテリアル株式会社 他

(注)1. *印は持分法適用会社であります。
(注)2. 日本メディカルマテリアル株式会社は、本年4月1日付で京セラメディカル株式会社に変更しました。

取締役および監査役、執行役員

(平成24年6月27日現在)

取締役社長(代表取締役)
佐藤 廣士

■本社

取締役副社長(代表取締役)
藤原 寛明

専務取締役
川崎 博也

専務執行役員
沖田 誠治

常務執行役員
金子 明

常務執行役員
花岡 正浩

常務執行役員
藤井 晃二

執行役員
杉崎 康昭

執行役員
山口 貢

執行役員
森地 高文

■鉄鋼事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*山口 育廣

専務執行役員
尾上 善則

常務執行役員
梅原 尚人

常務執行役員
宮脇 新也

常務執行役員
宮下 幸正

常務執行役員
岩佐 道秀

常務執行役員
河瀬 昌博

執行役員
後藤 隆

執行役員
水口 誠

執行役員
柴田 耕一朗

■溶接事業部門

専務取締役
*粕谷 強

常務執行役員
高村 実朗

執行役員
輿石 房樹

■アルミ・銅事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*高橋 徹

常務執行役員
佐藤 孝彦

執行役員
柴田 順行

執行役員
藤井 拓己

■機械事業部門

専務取締役
*植木 一秀

常務執行役員
大濱 敬織

執行役員
松田 彰雄

■資源・エンジニアリング事業部門

取締役副社長(代表取締役)
*田中 順

常務執行役員
眞部 晶平

執行役員
森崎 計人

■社外取締役

取締役
北畑 隆生

取締役
山内 拓男

(注)※印は、各事業部門長であります。

監査役(常勤)
大越 年祝

監査役(社外監査役)
佐々木 茂夫

監査役(社外監査役)
坂井 信也

監査役(常勤)
宮崎 純

監査役(社外監査役)
沖本 隆史

会社の概要

(平成24年3月31日現在)

- 創 立 明治38年9月
- 資 本 金 2,333億1,324万8,065円
- 発行済株式総数 31億1,506万1,100株
- 株 主 数 226,778名
- 従 業 員 数 10,370名

事業所

神戸本社 〒651-8585 神戸市中央区脇浜町二丁目10番26号
☎078(261)5111(大代表)

東京本社 〒141-8688 東京都品川区北品川五丁目9番12号
☎03(5739)6000(大代表)

支 社 大阪・名古屋

支 店 北海道(札幌市)・東北(仙台市)・
新潟(新潟市)・北陸(富山市)・
四国(高松市)・中国(広島市)・
九州(福岡市)・沖縄(那覇市)

海 外 ニューヨーク・シンガポール・上海
(注)[海外]には現地法人を含めております。

研 究 所 神戸

製鉄所・工場 〈鉄鋼〉加古川・神戸・高砂
〈溶接〉藤沢・茨木・西条・福知山
〈アルミ・銅〉真岡・長府・大安
〈機械、資源・エンジニアリング〉高砂・播磨

神戸製鋼グループ企業理念

当社グループは、下記の企業理念のもと、株主・投資家、顧客や取引先、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーの皆様に対して、企業としての社会的責任を全うできるよう努力を続けることにより、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

1. 信頼される技術、製品、サービスを提供します
2. 社員一人ひとりを活かし、グループの和を尊びます
3. たゆまぬ変革により、新たな価値を創造します

株式をどちらにお預けですか？

※ご一読ください

このページをご一読いただき、ご確認くださいませようお願いいたします。

1. 証券会社にお預けでない株式について

証券会社にお預けになっていない当社株式は、三菱UFJ信託銀行にある「特別口座」にて管理しております。「特別口座」では単元株式の売買はできません。証券会社にお預けでない株式について、証券会社の口座に移管することをお奨めします。(手続きの詳細は **3.** をご覧ください。)

※「特別口座」とは、平成21年1月の株券電子化の際に、証券会社にお預けられていない株式を管理するために、当社が開設した口座のことです。

2. 特別口座で管理されている株式の有無のご確認のお願い

次のような場合は、ご所有株式の全部または一部が「特別口座」にて管理されている可能性がございます。

- ①お手許に「株券」をご所有のまま証券会社にお預けになっていない場合
 - ②登録株式の場合(当社が株券を発行することなく、ご所有されていると株主名簿に“登録”のみさせていただいた株式)
- ※平成元年3月末時点の株主様には、同年5月18日に、1,000株につき30株を②の登録株式の形で交付しております。平成元年3月末以前から引き続いて当社株式をお持ちいただいている株主様、ご所有株式を過去に全て売却もしくは譲渡されたご認識にもかかわらず、現在も当社から株主様宛ての各種書面が届く方につきましては、現在、特別口座で管理されている株式をお持ちの可能性がございます。

3. 「特別口座」から証券会社の口座への株式の移管の方法

証券会社に口座を
開設する。

すでに証券会社に株式の取扱いができる口座をお持ちであれば、新たに開設の必要はありません。



三菱UFJ信託銀行に、
振替用の請求用紙を
請求する。



送られてきた請求用紙に
必要事項を記入・押印して、
三菱UFJ信託銀行に
送付する。



これで
手続きは
完了です。

証券会社の口座に
株式が移管されます。

<特別口座についてのお手続きお申込み先・お問い合わせ先>

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777



工場見学会参加者募集のご案内

当社は株主の皆様へ当社へのご理解を一層深めていただくために、引き続き株主様工場見学会を実施いたします。今回ご覧いただく工場は、真岡製造所でございます。つきましては、下記の内容にて開催いたしますので、ご案内申し上げます。



見学工場：真岡製造所(栃木県真岡市鬼怒ヶ丘15)

対象者：平成24年3月31日現在、当社株式
1,000株以上をご所有の株主様

工場見学会の概要

申込番号	実施日時 (平成24年)	集合場所	集合時刻	解散場所・予定時刻
①	10月20日	JR宇都宮駅近辺	8:50	JR宇都宮駅近辺 13:20頃
②	10月20日	JR宇都宮駅近辺	12:25	JR宇都宮駅近辺 17:00頃
③	10月21日	JR宇都宮駅近辺	8:50	JR宇都宮駅近辺 13:20頃
④	10月21日	JR宇都宮駅近辺	12:25	JR宇都宮駅近辺 17:00頃

※JR宇都宮駅までの所要時間:JR東京駅から東北新幹線で約50分。
※詳細は、ご招待状にてご連絡させていただきます。

募集人数：240名(各回60名) ※募集人数には同伴者を含みます。

以下の点につき、あらかじめご了承ください。
※工場見学会コースは徒歩での移動となります。途中何ヶ所か階段がございます。

※ご応募が多数の場合、抽選とさせていただきます。

抽選の結果は8月末にご通知する予定です。

※同伴者は1名まで(小学生以上)とさせていただきます。

※以下の場合、ご応募は無効とさせていただきます。

- 株主様ご本人のご応募・ご参加でない場合
(同伴者様のみのお応募・参加はできません。)
- 同伴者様を2名以上ご記入の場合
- 申込番号を2つ以上選択されている場合、もしくは1つも選択されていない場合
- 株主1名様につき、2枚以上ご応募された場合

応募方法：同封の参加申込はがきに必要な事項をご記入のうえ、ご返送ください。
(対象者の方のみに、はがきを同封しております。)

【締切日:平成24年7月27日(金)到着有効】

参加費：無料

※ただし、集合・解散場所(JR宇都宮駅)までの往復交通費は各自のご負担とさせていただきます。

お問い合わせ先：株式会社神戸製鋼所 法務部 工場見学会係
TEL 078-261-4067

受付時間 10:00~17:00(土・日、祝日、その他会社の休業日を除く)

これまでの株主様工場見学会開催状況のご報告(過去5回分)

当社では、株主様工場見学会を9回開催してまいりましたが、いずれの回も、全国から多数のご応募を頂戴しております。毎回多数のご応募をいただき、厚く御礼申し上げますとともに、今回も皆様のご応募をお待ちしております。

〈これまでの開催実績(過去5回分)〉

	日時	開催場所	募集人数	ご応募総数
第5回	平成22年 3月	加古川製鉄所	300人	3,318通
第6回	平成22年11月	真岡製造所	160人	1,216通
第7回	平成23年 3月	神戸製鉄所	200人	3,935通
第8回	平成23年11月	高砂製作所	240人	2,853通
第9回	平成24年 3月	加古川製鉄所	360人	2,825通



工場見学会の様子(加古川製鉄所)

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月

基準日

定時株主総会 3月31日

剰余金の配当 期末 3月31日

中間 9月30日

(その他必要のあるときはあらかじめ公告します。)

公告方法 電子公告
(当社ホームページをご覧ください。)
<http://www.kobelco.co.jp>

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部

株式に関するご案内

当社の株式に関する住所・氏名等の変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取・買増請求および相続などのご相談、お手続きは、以下のとおりです。

①証券会社にお預けの株式について

お預けの証券会社にお問い合わせください。

②証券会社にお預けでない株式について

三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。

〈郵便物および電話でのお問い合わせ先〉

〒541-8502

大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

☎ 0120-094-777

(通話料無料:オペレーターがお伺いいたします)

土・日、祝日を除く9:00～17:00

KOBELCO

インターネット ホームページ <http://www.kobelco.co.jp>



この「株主の皆様へ」は環境に配慮し、漂白のために塩素を使用しない用紙、および植物油インキを使用しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。